

## 父として、医師として

旭川医科大学病院  
なんぶ ゆうだい  
南部 湧大

初めまして。旭川医科大学麻酔科の南部湧大と申します。医師3年目、麻酔科専攻医1年目として日々忙しく、慌ただしく過ごしています。

この度は高校時代の同期であり、バスケットボール部で共に汗を流した楠原匡先生よりご紹介いただき、執筆の機会を頂きました。エッセイを書くということは私自身初めてのことであり、そもそも作文をするということが中学生以来なのではないかと思うほど文学とは疎遠な私ですので、今回の企画に参加することをとても新鮮に感じています。

さて、麻酔科医のひよことして奮闘中の私ですが、仕事以外にも日々奮闘していることがあります。それは子育てです。現在、二児の父、そして今秋に三児の父になろうとしています。私は26歳です。正気の沙汰ではないほどのハイペース、と我ながら思います。医学部5年生、22歳で結婚し、第一子をもうけ、その2年後に第二子を授かりました。妻は現在、研修医1年目として、大きなお腹を抱え、慣れない仕事に戸惑いながらも子ども達の世話に手を抜くことなく過ごしています。子育てはとても楽しく、やりがいを感じています。子ども達から学ぶことも多くあり、すっかり会話ができるようになった上の子と、今日あったことの話をするのは帰宅後の楽しみとなっています。ただ、上も下もどちらも男の子で、最近遊びが激しくなってきたことに若干恐怖を感じています。「パパ怪獣になって」の一言から始まる怪獣ごっこで、パパの体力は限界です。現在ママのお腹で眠る怪獣も男の子の予定です。一体我が家はどうなってしまうのでしょうか。

さてさて、残念ながら子育ては楽しいことばかりではありません。結婚当初から予想していたことでしたが、両親ともに新米医師、子育てとの両立は非常に大変です。朝の集合時間に出勤することさえ一苦勞です。妻の研修科によっては、おばあちゃんズの全面的な協力を得てなんとか成り立つような生活です。そんな生活で私が家庭のために貢献できることがどれほどあるかということ、そんなには多くない、というのが私の悩みです。自分で言うのもなんですが、私は家庭を大事にしたい、子育てに参加したいと思う気持ちは人一倍強い方と思っています。ですが私はどこにでもいる専

北海道伊達市出身。室蘭栄高校、旭川医科大学を卒業し、現在旭川医科大学病院で麻酔科専攻医をしています。写真はルスツリゾートに行った際、長男と撮った一枚です。



攻医1年目の一人でもあります。専攻医には専攻医の仕事、役目があり、勉強しなければならないことも山ほどあります。それは重々承知しており、職場に貢献したいと思う気持ちも人並みにはあると思います。しかしそれ以上に、家庭に貢献できていないという罪悪感が今の私には強いのです。平日は大学勤務で朝から夕方まで麻酔をかけ、帰りは子ども達の寝る支度が済んだ後のこともあります。土日は子ども達と公園にいるのかということそんなことはなく、ほかの病院の当直室にいます。三人の子ども達を養う身として、ある程度の収入は確保しなければなりません。つまり必然的にバイトに行かなければならず、家を空ける日が多くなります。妻にも大きな負担になりますし、貴重な休日を家族と過ごせないのは私自身の大きなストレスになります。1回の土日に働かなければ収入が2割程減りますので、収入を人質に取られている気分です。つまり何が言いたいかというと、平日勤務だけで十分な収入を得ることはそんなに難しいことなのでしょうか。大学病院で1ヵ月働く給料と、週末に行く2泊3日の外病院での当直が同じ給料なのは正常なのでしょうか。コスパを重視した場合、バイト医になるのも納得の給料制度と私は思います。全ての土日が休みとは言わずとも、潰れる土日が月1回程度であれば精神衛生的にも、体力的にもどれ程楽だろうと思います。こんな悩みを抱えているのは私だけなのでしょうか。それとも多くの方が同じように感じていて、言わずにいるだけなのでしょうか。若手医師の幸せのために、この体制が少しは改善されることを願っています。

今回のエッセイのテーマは自由ということで、普段は思っているだけの愚痴をここに綴らせていただきました。多くあるエッセイの中からわざわざ私の拙い文章を読む人はそんなに多くないだろうと高を括った結果になります。私と同じような悩みを抱えている方がいたら、その人の気が少しでも楽になれば幸いです。